

令和5年産 温州みかん 樹に応じた摘果で品質向上へ

本年度の温州みかんの満開日は、極早生(ゆら早生)5月2日、早生(宮川早生)5月3日、普通(林温州)5月5日といずれも平年に比べ4～6日早くなりました。また、着果量は平年に比べやや少ない裏年傾向であることと、園地・樹ごとのバラツキが大きいいため、それぞれの樹に合わせた管理が必要となります。

今年の管理ポイント ～ 粗摘果を控え、仕上げ摘果を重視することで品質向上を目指しましょう ～

着果量[少]の樹



開花時の樹の様子

新梢を早期に充実させましょう

苦土(マグネシウム)入り資材を投入することで、新梢の早期充実が期待できます。今年梅雨入り早く、その後の日照不足が懸念されるので、新葉を早期に充実させて、早目に光合成量を確保しましょう。

粗摘果を控えましょう

なぜなら

- ・大玉果生産を抑制するため
→ 着果数の少ない樹では、果実肥大が促進され、品質が低下します
- ・品質向上を目指すため
→ 樹への着果ストレスを付与することで果実品質が向上します
- ・隔年結果を是正するため
→ 着果させることで、次年度の着花数を抑制し、安定生産が可能となります

本年産だけでなく次年度を見据えた管理を行いましょう

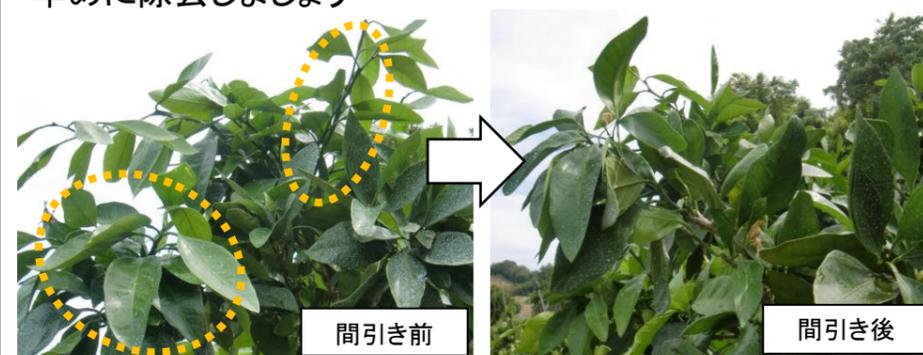
仕上げ摘果を重視しましょう

収穫40日前頃(極早生8月下旬、早生9月下旬、中生10月中旬、晩生10月下旬)までに適正葉果比になるよう摘果します。例:極早生で20枚に1果、早生、中生で20～25枚に1果、晩生で25枚に1果を樹ごとの樹勢、着果量を見て摘果しましょう。

【参考】L・M・S果生産に必要な横径(mm)の目安は裏面の通りです。

強い新梢を間引き、安定着果に繋げましょう

着果量が少ない樹では、幼果に覆いかぶさるような枝(点線内)を間引き、日当たりを良くすることと、養分競合を少なくすることで、生理落果を軽減させましょう。また、樹勢を安定させるため、強い徒長枝になるような枝は早めに除去しましょう。



○被さり枝(点線内)の除去
→ 日照改善と養分競合を防止、生理落果を抑制

×もし放置すると...
→ 強い新梢となり生理落果を助長し、樹勢が不安定に!



着果量[中]の樹

小玉果



- ・粗摘果は、樹冠内部の極小玉果を中心とします
- ・9月の仕上げ摘果で適正な果実量(葉果比)にします
- ・秋以降の降雨による品質低下を防ぐため、シートマルチを敷設します

着果量[多～甚多]の樹

- ・樹冠内部およびスソ周りの小玉果、下向きブドウ状の直果を基部から除去
- ・奇形果、傷害果など徹底的に除去
- ・日焼け果等は仕上げ摘果または、樹上選果にて除去

スソ周りの小玉果



ブドウ状の直果



日焼け果

